

## 第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	アスク山手保育室
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	横浜保育室
事業所住所等	〒231-0846 横浜市中区大和町1-30-2
設立年月日	平成18年4月1日
評価実施期間	平成26年5月～26年10月
公表年月	平成26年12月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<b>【施設の特徴】</b>	
<b>1. 立地および施設の概要</b>	
アスク山手保育室はJR根岸線山手駅から徒歩5分、駅前から商店街が立ち並び裏側の道にあり、住宅街の静かな環境にあります。平成18年4月に開設し、0～2歳児まで22名が在籍しています。近くには仲尾台公園、桜公園などの大小の公園があり、子どもたちの散歩コースとなっています。	
<b>2. 施設の特徴</b>	
設置法人から派遣される専任講師による英語教室、体操教室や親子クッキング保育などを行っています。また、外国籍の子どもを複数受け入れ、地域の子育て支援として一時保育を実施しています。	
<b>【特に優れていると思われる点】</b>	
<b>1. 全職員による子どもへの丁寧な対応</b>	
小規模園であることを活かし、クラス担任が連携し合って、全職員が全園児と関わる機会を持っています。食事や、異年齢での散歩、園庭のプール遊びなど、一人一人の子どもの様子を見ながら意思を確認し受けとめています。職員は「子どもには温かい雰囲気で接し、応答的な関わり方や話しかけをすること」を基本に、静かな声で、穏やかに子どもに話しかけ、子どもの気持ちに寄り添い、安心して過ごせるように対応しています。	
<b>2. 積極的な職員研修</b>	
職員は目標を定めた個人別年間研修計画を作成し、設置法人の研修や、外部研修などに積極的に参加しています。また、毎月、非常勤職員も可能な限り参加して園内研修を行い、研修報告やテーマを決めて保育環境の見直しに努めています。第1回目は発達に応じたおもちゃについての見直しを行い、研修受講の成果を活かして絵合わせカードや魚釣りなどのおもちゃを職員が手作りし、日常の保育に活かしています。	
<b>【特に改善や工夫などを期待したい点】</b>	
<b>1. 子育て相談に応じる工夫と体制作りの充実</b>	

中区で実施するグランマ保育園事業「絵本の貸し出し」や一時保育を通して、地域での子育て支援を行っています。子育てに関する相談は実施されていません。地域住民の子育て相談に応じる工夫と体制作りの充実が望まれます。

## 2. 調理担当者が子どもの食事の様子を見る機会を

担当の栄養士は他のエリアも担当しているため、親子クッキング保育など行事があるときに来園しています。日常の調理は担当者一人で行っているため、子どもの食事の様子を見ることができない現状にあります。日常の子どもの喫食状況を把握して調理の工夫ができるよう、食事の様子を見る機会を設けることが望まれます。

### 評価領域ごとの特記事項

#### 1. 人権の尊重

- ・「子どもが安心できるような触れ合いや言葉かけを行う」「一人ひとりの子どもの気持ちを温かく受容する」ことを保育課程や指導計画の随所に記載があり、子どもには温かい雰囲気や接し応答的な関わり方や話しかけをすることを職員間で確認し合っています。
- ・職員は入社時に守秘義務の意義や目的などの説明を受け、全職員が守秘義務に関する誓約書を交わしています。
- ・個人情報の取り扱いについて「入園のご案内」に記載して入園時に保護者に説明しています。また、子どもの写真掲載に関しては入園申込書に確認欄を設けて保護者の承諾を得ています。
- ・個人情報に関わる書類は事務所の書庫で施錠管理しています。パソコン内の個人データはパスワードを設定して管理しています。
- ・おままごとは女の子の遊び、怪獣は男の子のおもちゃなどと性差による固定観念で保育をしていないかなど具体的な事例を、第三者評価調査の自己評価の機会に職員間で話し合っています。

#### 2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・保育室にぬいぐるみ、乗って遊ぶ車、ブロック、紐通しなど、年齢や発達に応じたおもちゃや絵本を子どもが自分で取り出せるように置き、必要に応じておもちゃの入れ替えをしています。また、子どもが落ち着いて遊べるように、机や敷物などを使って遊びのコーナーを作っています。
- ・友達が使っているおもちゃを使いたいときは「かして」と言うことや滑り台は順番に滑ることなどを伝え、職員は年齢に応じて友達関係や社会性が育つように援助しています。
- ・園庭のプランターでピーマンや枝豆を育て、公園でアリやダンゴ虫を探したりしています。散歩マップを作って日々散歩に出かけ、自然に触れ、地域を知る体験をしています。
- ・公園の遊具、途中の坂や階段などを考慮して子どもの体力に応じた散歩に出かけています。マットを活用して山やトンネル、滑り台を作り、ハイハイ遊びや全身を使った遊びなど発達過程に応じて楽しみながら運動能力が向上するように取り組んでいます。また、1、2歳児は専門講師による体操教室を取り入れています。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 食事は個々の子どもの食欲や嗜好を考慮して盛り付け量を調節し、完食する喜びを大切にしています。授乳時間は家庭での状況と連携し、職員が子どもを抱いて声をかけながら飲ませています。また、職員は子どもの意欲を大切に励ましやほめ言葉をかけながら援助しています。</li> <li>• 給食には旬の食材を多く取り入れ、子どもが喜び盛り付けの行事食を毎月1回提供しています。離乳食はプラスチック製、幼児食は強化磁器製食器を使用し、2歳児クラスから箸の使用に取り組んでいます。</li> <li>• 午睡時は子どもが心地よく眠りにつけるように環境を工夫し「おやすみなさい」のあいさつをしています。また、0歳児は5分、1歳児は10分おきに体位確認と呼吸チェックをして記録しています。</li> <li>• 活動の節目におむつ交換をして、職員は子ども一人一人の排泄リズムを把握しています。保護者と連携しトイレトレーニングを始めています。子どもがトイレに行きやすいように動物の貼り絵などでトイレは明るく楽しい雰囲気作りをしています。</li> </ul>
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 設置法人の運営理念とともに、保育理念として「子どもの『自ら伸びようとする力』『後伸びする力』を育てる保育を、『五感で感じる保育』の充実を」、園目標として「『健康な身体を作る』『ありがとう、ごめんなさい』と素直に思える心を育てる」を掲げ、利用者本人を尊重したものとなっています。</li> <li>• 保育課程は年度初めに正規の全職員が保育理念・基本方針に沿って見直し作成し、子どもの最善の利益を最優先にしています。同時に保護者との連携、地域の人々との関わりなどを考慮し保育課程の中に「保護者・地域等への支援」という項目を設けています。</li> <li>• 入園前に必ず園長が保護者と個別面接を行い、子どもの発達状況や課題を把握しています。個別面接の際には、できるだけ子どもも一緒に来てもらい、職員は子どもの遊んでいる様子などを観察しています。子どもが同席できない場合はならし保育のときに観察しています。</li> <li>• ならし保育は入園前に保護者に説明し対応しています。園では親子一緒に1時間、2日目は子どもだけ2時間、3日目以降は徐々に時間を長くしています。新入園児全員、ならし保育はおおよそ4日前後ですが、長い場合は2週間行っています。</li> <li>• 保育課程に基づき年間指導計画は年齢別、4期に分けて作成し、期ごとに評価、反省を行っています。また、月間指導計画は月ごとに評価、反省を行い翌月の計画に反映させています。</li> <li>• 全園児について月間個別指導計画を立てています。その内容は、「ねらい、内容、配慮、評価・反省」で構成されています。個別計画は月一回を目安に評価・見直しを行っていますが、子どもの発達状況により臨機応変に対応しています。</li> <li>• 保育園の清掃は、職員が保育園衛生マニュアルに基づき行われ、清潔に保たれています。記録として清掃記録表に記入しています。換気は、毎朝職員が</li> </ul>

	<p>定期的に行っています。換気扇は必要に応じ使用しています。また、ゴミ箱の蓋に芳香剤を貼り付け、気になる臭いを取り除いています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい児保育に関しては保護者の同意を得て、設置法人の発達支援チームの職員から助言を得る体制が構築されています。また、中部地域療育センターからの指導も得られる体制にあります。</li> <li>虐待対応マニュアルに虐待の定義、防止のポイント、対応指針、諸機関との連携などの記載があり、園内研修などで話し合い、全職員は周知しています。虐待の予兆があった場合は、先ず設置法人に連絡し、同時に中区福祉保健センター家庭支援課や横浜市中心児童相談所などに相談できる体制にあります。</li> <li>食物アレルギーのある子どもには入園時にかかりつけ医の診断書（指示書）を提出してもらい、職員、設置法人の栄養士は該当する子どもの保護者と面談し、除去食の内容について確認し、職員はそれに基づき適切に対応しています。</li> <li>外国籍などの子どもの保護者から入園時や送迎時に文化や生活習慣や子育ての違いを聞き、その違いを尊重して対応するようにしていますが、日常生活での違いはほとんどありません。</li> <li>苦情解決体制については要望・苦情受付の担当は園長であることを入園前の説明会で説明しています。園単独で解決が困難な問題に対し、設置法人の担当部署、中区福祉保健センターなどと連携し対応できる仕組みあります。</li> <li>過去の苦情・トラブルは記録（クレーム受理票）として残すとともに日常的には保護者からの要望に関しては「要望ノート」を作成し、職員間で周知を図り再発防止に活かしています。</li> </ul>
<p><b>4.地域との交流・連携</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の子育て支援について職員間で話し合いをしています。子育てを支援するサービスとして一時保育を受け入れ、約20名の登録があります。また、中区のグランマ保育園事業に参加して絵本貸出を実施していますが、利用者はまだ少ないのが現状です。</li> <li>地域住民向けに卒園児に招待状を発送したり、園の玄関や近隣の商店街に行事のポスターを掲示しています。最近では「夏祭り」に小学生10名と地域の人（2家族）の参加がありました。</li> <li>遠足で、横浜市立野毛山動物園、横浜動物園ズーラシア、横浜市金沢動物園、根岸森林公園などの公共施設やみなとみらいのテーマパークを利用しています。また、市立竹之丸保育園の園庭やプールの利用、運動会は立野小学校の体育館で行いました。</li> <li>自治会などを通じ地域の情報を把握し、地域の行事の情報を掲示板で保護者に知らせ、保護者が地域の行事に参加しています。</li> </ul>
<p><b>5.運営上の透明性の確保と継続性</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園のパンフレット、横浜市や設置法人のホームページにサービス内容の詳細や主な行事の写真や子どもの様子などを掲載し、情報提供を行っています。また、中区子ども家庭支援課には園の紹介用紙を置いてもらい、園見学受け</li> </ul>


	<p>入れや入園の情報を提供し、毎月現在の受入れ可能人数を報告しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 就業規則、業務マニュアルに法規、倫理などの順守すべきことが明文化され、入社時の研修で周知するとともに、職員会議などでも園長が折に触れ確認しています。また、職員は入社時に守秘義務等の誓約書を提出しています。</li> <li>• 園長は、隔週、設置法人で行われている園長会で報告された不適切な事例などを、職員会議の議題として話し合い、それらの行為を行わないように指導しています。</li> <li>• 平成25年5月に3年間の長期計画・中期計画を策定しています。3年長期計画目標として「地域に密着した保育室を目指す」を掲げています。</li> <li>• 設置法人においては次代の保育園運営に関し、外部の専門家の意見などを取り入れながら、新しいプロセス、仕組みを検討しています。設置法人の担当部署で収集・分析された情報は隔週で開催される園長会議で検討されています。</li> </ul>
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 園長は園運営に十分な人材構成であるかを常にチェックし、必要時には設置法人と相談の上、補充を行っています。</li> <li>• 設置法人が職員の研修計画を策定しています。職員は個人別年間研修計画を作成し半期ごとに評価を行い、園長と面談を行い次年度につなげています。園での研修は毎月行っています。可能な場合にはパート職員にも参加してもらっています。</li> <li>• 研修受講後は、研修レポートを提出し、職員会議で報告し、実践に活かすように努めています。また、設置法人では研修成果の見直しを年度初めに行い、次年度の年間研修計画の策定につなげています。</li> <li>• 職員は年間目標を設定し、年3回自己査定を行っています。また、職員は毎年第三者評価を受審する中で自己評価を行っています。</li> <li>• 設置法人での園長会議の中で、工夫や改善事例などを話し合い、一層のサービス向上を目指しています。それらは園に持ち帰り職員会議や園内研修で話し合っています。</li> <li>• 園長は可能な限り現場の職員に権限委譲し現場で判断し、園長に報告をすることになっています。同時に最終的な責任を園長がとる体制となっています。</li> <li>• 園長と職員との面談を2か月に1回行い、現状の問題や意見・提案を聞いて業務改善につなげています。また、毎月の職員会議でも話し合いを行っています。</li> </ul>

## 評価機関による評価(案)



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

### 評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

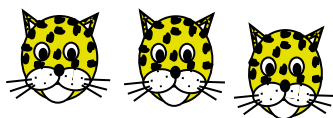
評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人の運営理念とともに、保育理念として「子どもの『自ら伸びようとする力』『後伸びする力』を育てる保育を、『五感で感じる保育』の充実を」、園目標として「『健康な身体を作る』『ありがとう、ごめんなさい』と素直に思える心を育てる」を掲げ、利用者本人を尊重したものとなっています。</li> <li>・保育理念、基本方針、園目標を誰でも見えるように園の掲示板や事務室に掲げています。また、職員会議でも確認し合っています。</li> <li>・保育課程は年度初めに正規の全職員が保育理念・基本方針に沿って見直し作成し、子どもの最善の利益を最優先にしています。</li> <li>・正規職員が非常勤職員とのクラス会議などで意見を聞き、それを踏まえて正規職員が職員会議で話し合い作成しています。</li> <li>・保育課程は年度初めの4月の保護者会で保護者に説明しています。欠席者には個別に説明しています。また、6月に一部変更し、8月の保護者会で伝えています。</li> </ul>

### I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ・入園前に必ず園長が保護者と個別面接を行い、子どもの発達状況や課題を把握しています。個別面接の際には、できるだけ子どもも一緒に来てもらい、職員は子どもの遊んでいる様子などを観察しています。子どもが同席できない場合はならし保育のときに観察しています。
- ・面接時の内容については「入園前面接シート」に記載し、また、得られた情報などの記録は個人ファイルにして、職員はいつでも閲覧できるようになっており、日々の保育に役立っています。
- ・ならし保育は入園前に保護者に説明し対応しています。園では親子一緒にならし保育を提案して実施し、1日目は親子一緒に1時間、2日目は子どもだけ2時間、3日目以降は徐々に時間を長くしています。新入園児全員、ならし保育はおおよそ4日前後ですが、長い場合は2週間行っています。
- ・全園児の個別の保育連絡ノート（授乳がなくなるとフォーマット変更）があり、保護者に園での様子を伝え、保護者から家庭での様子を記入してもらい記録として残るようにしています。
- ・年間指導計画は年齢別に4期に分けて作成し、期ごとに評価・反省を行っています。また、月間指導計画は月ごとに評価・反省を行い翌月の計画に反映させています。
- ・送迎時の会話や保護者との個人面談、保護者会などを通じ、保護者の意見を把握し指導計画を作成しています。また、個別指導計画ではトイレトレーニングや離乳食、箸への移行などは保護者との連携を密にし、指導計画に活かしています。

### I-3 快適な施設環境の確保



- ・保育園衛生マニュアルに基づき清掃が行われ、清潔に保たれています。清掃箇所ごとに職員が清掃記録表に記入しています。換気扇は必要に応じて使用し、毎朝、職員が定期的に換気を行っています。また、ゴミ箱の蓋に芳香剤を貼り付け、気になる臭いを取り除いています。
- ・温湿度の基準値は文書化されていませんが、夏は室温28度、湿度50%、冬は25度、湿度40%を目安に管理し、子どもたちの様子を確認しながら必要に応じてエアコンで調整しています。
- ・各クラスとも窓が広く、掲示物で窓がふさがれることもなく、陽光が十分取り入れられています。
- ・小集団保育が行えるように年齢ごとに工夫しています。例えば、2歳児クラスではロッカーを利用してコーナーを作り、いろいろな遊びができるように工夫しています。
- ・0、1歳児の保育室は食事と午睡・遊びの部屋を分けています。2歳児の保育室はロッカーで仕切り、食事、午睡、遊びの空間を分けています。

#### I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・全園児について月間個別指導計画を立てています。その内容は、「ねらい、内容、配慮、評価・反省」で構成されています。個別指導計画は月一回を目安に評価・見直しを行っていますが、子どもの発達状況により臨機応変に対応しています。
- ・個別指導計画の作成・見直しについては、離乳食の進行状況やトイレトレーニングなど保護者に説明し同意を得ています。
- ・子ども一人一人の記録は、入園時の書類「家庭調査票」、「入園前面接シート」、「児童健康調査表」、「健康診断書」、「お子様の状況について」などを個別にファイルし職員はいつでも確認できるようになっています。
- ・入園後の子どもの成長発達状況を「児童票」「児童健康調査票」に記録し、個別ファイルで管理しています。

#### I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み




- ・特に配慮を要する子どもの個別ケースについては、日常の保育の中で気づいたことを、毎月開く職員会議の中で話し合い、ケース記録として残しています。
- ・園では設置法人から伝達される情報や発達支援チームからの指導がある場合は、全職員に情報や指導内容を伝えています。障がい児の保育については、設置法人の発達支援チームの職員から助言を得たり、保護者の同意を得た上で、中部地域療育センターからの指導も得られる体制があります。
- ・虐待対応マニュアルに虐待の定義、防止のポイント、対応指針、諸機関との連携などを記載し、園内研修などで話し合い、全職員は周知しています。また、虐待の予兆があった場合は、設置法人に連絡し、中区こども家庭支援課や横浜市中央児童相談所などに相談できる体制があります。
- ・食物アレルギーのある子どもの保護者には、入園時にかかりつけ医の診断書（指示書）を提出してもらい、職員、設置法人の栄養士と面談し、除去食の内容について確認し、職員はそれに基づき適切に対応しています。厚生労働省の「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」があり、職員は園内研修で学習し、アレルギー疾患について周知しています。また、該当する子どもの情報は事務所に掲示し職員は周知しています。
- ・外国籍の子どもの保護者から、入園時や送迎時に文化や生活習慣や子育ての違いを聞き、その違いを尊重して対応するようにしていますが、日常生活での違いはほとんどありません。


**<コメント・提言>**

- ・床の段差を解消することは設備的に困難な状況にありますが、さらなる工夫を行い、障がい児保育の環境整備が期待されます。



評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要望・苦情受付の担当は園長であることを入園前の面接で説明しています。また、苦情受付先として設置法人の連絡先や中区こども家庭支援課を「入園のご案内」に記載し、玄関にも掲示して周知しています。</li> <li>・自分で意見表明するのが苦手な保護者には職員から積極的に話しかけたり、電話で連絡を取るようになっています。</li> <li>・園単独で解決が困難な問題に対し、設置法人の担当部署、中区福祉保健センターなどと連携し対応できる仕組みがあります。</li> <li>・苦情解決については業務マニュアルにある苦情対応マニュアルに沿って対応を行い、その内容は職員会議で話し合い周知しています。</li> <li>・過去の苦情・トラブルは「クレーム受理票」として記録に残すとともに、日常的な保護者からの意見・要望は「要望ノート」を作成し、職員間で周知し再発防止に活かしています。</li> </ul>

## 評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ-1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室に、ぬいぐるみ、乗って遊ぶ車、ブロック、紐通しなど、年齢や発達に応じたおもちゃや絵本を子どもが自分で取り出せるように置き、適宜おもちゃの入れ替えをしています。また、子どもが落ち着いて遊べるように、机や敷物などを使って遊びのコーナーを作っています。</li> <li>・友達が使っているおもちゃを使いたいときは「かして」ということや滑り台は順番に滑ることなどを伝え、職員は年齢に応じて友達関係や社会性が育つように援助しています。</li> <li>・園庭のプランターでピーマンと枝豆を育てたり、公園でアリやダンゴ虫を探したりしています。また、散歩マップを作って日々散歩に出かけ、自然に触れ、地域を知る体験をしています。</li> <li>・おもちゃの取り合いなどの際は危険のないように見守りながら、タイミングを計り職員が代弁して仲介しています。</li> <li>・小規模園であることを活かして全職員が全園児と関わる機会を持ち、またクラス担任が連携し合って異年齢の子どもが日常的に関わり合いながら過ごせるように工夫しています。</li> <li>・子どもと信頼関係を築けるように温かい態度や言葉づかいで接するようにクラス会議で話し合っています。</li> <li>・紫外線に配慮しながら毎日のように散歩に出かけ、夏季には園庭で水遊びをしています。</li> <li>・公園の固定遊具、途中の坂や階段などを考慮して子どもの体力に応じた散歩に出かけています。室内ではマットを活用して山やトンネル、滑り台を作り、ハイハイ遊びや全身を使った遊びなど発達過程に応じて楽しみながら運動能力が向上するように取り組んでいます。また、1、2歳児は専門講師による体操教室を取り入れています。</li> </ul> <p>&lt;工夫している事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は外部研修で学んだことを活かし、職員自ら工夫しておもちゃを手作りしています。</li> </ul>

## Ⅱ－1 保育内容[生活]



・食事は個々の子どもの食欲や嗜好を考慮して盛り付け量を調節し、完食する喜びを大切にしています。授乳時間は家庭での状況を把握し、連携して対応しています。授乳は職員が子どもを抱いて声をかけながら飲ませています。また、職員は子どもの意欲を大切に励ましやほめ言葉をかけながら援助しています。

・給食には旬の食材を多く取り入れ、子どもが喜ぶ盛り付けの行事食を毎月1回提供しています。離乳食はプラスチック製、幼児食は強化磁器製食器を使用し、2歳児クラスから箸の使用に取り組んでいます。

・子どもの食事の様子や残食量を参考に、給食会議で検討して献立や調理方法に反映しています。献立表を毎月保護者に配布し、食事サンプルを毎日展示しています。クッキング保育や人気メニューのレシピを給食だよりに掲載し、親子クッキングや給食試食会を実施して保護者に園の給食についての情報を提供しています。

・午睡時は子どもが心地よく眠りにつけるように環境を工夫し「おやすみなさい」のあいさつをしています。また、0歳児は5分、1歳児は10分おきに体位確認と呼吸チェックをして記録しています。

・トイレトレーニングは保護者と連携しながら個別に進めています。トイレは動物の貼り絵などで明るい雰囲気になっています。

### <コメント・提言>

・より豊かな食事の提供に向け、調理担当者が子どもの食事の様子を見たり給食会議に参加して情報を共有し合うことが望まれます。

## Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



・健康管理マニュアルに基づいて子ども一人一人の健康状態を職員が把握し、保護者と連携して子どもの健康管理をしています。

・横浜保育室には歯科健診の義務付けがないため実施していませんが、1、2歳児クラスは食後の歯磨き指導を行い職員が仕上げ磨きを行っています。

・園医による健康診断を年2回行い、結果は個別に記録して職員が共有し、保護者には書面で伝えています。

・感染症・食中毒対応マニュアルがあり、登園許可書が必要な感染症や症状により登園を控える感染症について保護者に周知しています。保育中に感染症が疑われた場合は速やかに保護者にお迎えを依頼し、感染症が発生した時は病名と症状の特徴などを目につく場所に掲示しています。また、各クラスのトイレ内にマニュアルに基づいた嘔吐処理セットを準備して感染拡大防止に努めています。

## Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理[衛生管理]



・衛生マニュアルがあり、職員の意見を収集してマニュアルの見直しをしています。マニュアルは入社時研修や見直しの際に職員間で確認し合い、クラス会議で非常勤職員にも伝えています。また、職員が外部研修に参加して衛生管理に努めています。

・清掃はチェック表で確認して清掃を行い園内を清潔に保っています。手洗い場には液体せっけん、紙タオル、ポリ手袋が準備してあります。



**II-2 健康管理・衛生管理・安全管理**  
[安全管理]




- ・事故防止対応マニュアル、緊急時連絡フローを策定して職員に周知しています。災害に備え収納庫を固定し備品には滑り止めを施しています。また、消火・通報・避難訓練を毎月実施し、災害時は「緊急時メール配信システム」により保護者に連絡する体制ができています。
- ・正規職員が幼児安全法を取得し、全職員が法人内研修で心肺蘇生法を学んでいます。
- ・子どものケガは保護者に伝え、アクシデントレポートに詳しく記録しています。また、職員会議で再発防止を検討し実行しています。
- ・玄関は電子錠を施しモニターで来園者を確認後に開錠しています。警備会社と契約し園内外の緊急時には迅速に対応できる体制が整い、不審者対応訓練を実施しています。中区役所や中区保育園連絡網を通して地域の不審者情報を得ています。

**<工夫している事項>**



- ・災害後の状況を想定することで災害前にどんなことが必要かを考えるトレーニングツール「目黒巻」を活用した園内研修を行い災害に備えています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>II-3 人権の尊重</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の子どもの気持ちを温かく受け止めて応答的な関わり方をすることや子どもの人格を辱めるような保育を行わないことを職員間で確認し合っています</li> <li>・職員は個人情報保護マニュアルを入社時に学び誓約書を提出しています。個人情報に関わる書類は施錠管理し、パソコン内の個人データはパスワードを設定して管理しています。</li> <li>・おままごとは女の子の遊び怪獣は男の子のおもちゃなど、性差による固定観念で子どもに接していないか、保育を振り返る機会に職員間で話し合っています。</li> </ul>
<p><b>II-4 保護者との交流・連携</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会とクラス懇談会を年3回開催し、園の基本方針や園目標などを説明して保護者の質問に答え、行事後の保護者アンケートを実施しています。</li> <li>・保育連絡ノートで毎日保護者と情報交換し、特に伝達が必要な事項は職員間で連携し合い保護者に口頭で伝えています。その日の保育の様子をクラスノートで伝え、毎月発行の園だよりでも各クラスの様子を写真入りで知らせています。</li> <li>・個別面談は2週間の期間を設定して年2回実施し、要望があればいつでも面談を受け付けています。また、保護者の相談はプライバシーに配慮して行い、必要があれば園長が同席し「要望ノート」に記録しています。</li> <li>・2週間の期間を設定して保育参観を受け入れ、夏祭り、運動会、親子遠足、親子クッキングなど保護者参加の行事も実施しています。</li> <li>・日常保育やイベント時の子どもの様子を職員が写真撮影し、月1回のペースで保護者に販売しています。</li> </ul>


## 評価領域Ⅲ 地域支援機能



評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子育て支援について職員間で話し合いをしています。子育て支援サービスとして一時保育を受け入れ、約20名の登録があります。また、中区グランマ保育園事業に参加して絵本の貸出しを実施していますが、利用者はまだ少ないのが現状です。</li> <li>・育児に関する関連諸機関とは連携できる状況にあり、園の見学時に子育てについての相談があれば対応していますが、地域に向けた定期的な育児相談は行っていません。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の子育てに関する育児相談に応じる工夫と体制作りが望まれます。</li> </ul>

## 評価領域Ⅳ 開かれた運営




評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒園児に招待状を発送したり、園の玄関や近隣の商店街に行事のポスターを掲示しています。最近では「夏祭り」に小学生10名と地域の親子2家族が参加しています。</li> <li>・中区のグランマ保育園事業に参加し、区の助成金で絵本を購入し地域の人へ貸し出しを行っています。また、昨年は立野小学校の児童を受け入れ2歳児と交流を行いました。</li> <li>・園の遠足では、横浜市立野毛山動物園、横浜動物園ズーラシア、横浜市金沢動物園の公共施設やみなどみらいのテーマパークなどを利用しています。親子遠足では根岸森林公園に行っています。</li> <li>・自治会などを通じ地域の情報を把握し、地域の行事の情報を掲示板で保護者に知らせ、保護者が地域の行事、ハロウィンに参加しています。</li> </ul>
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人のホームページや横浜市こども青少年局のホームページ、園のパンフレットなどで園の情報や主な行事、利用料金などを情報提供しています。また、中区こども家庭支援課には園の紹介用の用紙をパウチにして置いてもらい、園見学や入園の情報を提供しています。毎月初めに、現在の受入れ可能人数を報告しています。</li> <li>・入園希望の見学者には、料金やサービス内容について「入室のご案内」（パンフレット）を渡して説明しています。</li> <li>・入園希望の問い合わせがあった場合には、見学が出来ることを伝えていきます。また、見学希望者の都合に合わせて希望の日時を聞いて、保育に差し支えないように対応しています。土曜日や子どもの午睡時に受けることもあります。多い月で10名、少ない月で5名ほどの見学者がいます。</li> </ul>

## 評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>V-1 職員の人材育成</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長は園運営に十分な人材構成であるかを常にチェックし、必要時には設置法人と相談の上、補充を行っています。また、職員との面談でも人材について話し合っています。</li> <li>・職員は年度初めに個人目標を立て、園長に提出しています。また、正規職員は年3回自己査定シートに基づき自己評価を行い、園長と面談し、達成度を確認、評価を行い次年度につなげています。</li> <li>・設置法人が職員の研修計画を策定し、職員は個人別年間研修計画を作成して半期ごとに評価を行い、園長と面談を行い次期につなげています。園内研修は毎月午睡時に行っています。可能な限りパート職員にも参加してもらっています。</li> <li>・職員は研修受講後に、研修レポートを提出し、職員会議で報告し、実践に活かすように努めています。また、設置法人で研修成果の見直しを行い、次年度の年間研修計画の策定につなげています。</li> </ul>

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>V-2 職員の技術の向上</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は年間目標を設定し、年3回、基準に沿って自己査定を行っています。また、職員は毎年第三者評価を受審する中で自己評価を行っています。</li> <li>・設置法人の園長会の中で、工夫や改善事例などを話し合い、一層のサービス向上を目指しています。園長会の報告は園に持ち帰り、職員会議や園内研修で話し合っています。</li> <li>・年間指導計画、月案、週案の計画書は、定型化された書式に「評価・反省」欄を設け、実践の振り返りを記入するようにしています。</li> <li>・月間指導計画などの評価・反省欄の振り返りは、計画で意図したねらいと関連づけて行っています。</li> <li>・職員全員が第三者評価の中で自己評価を行い、職員会議などで話し合い、自己評価票を作成し、課題や改善点を見出しています。</li> <li>・平成25年度保育所の自己評価は7月の「えんだより」に記載し、26年度の課題として「地域支援」と「手作りおもちゃ」に力を入れることを公表しています。</li> </ul>
<p><b>V-3 職員のモチベーションの維持</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人における経験、能力や習熟度に応じた役割について「保育士に求められる役割と能力」があり、期待水準が明文化されています。</li> <li>・園長は可能な限り現場の職員に権限委譲し、職員は現場で判断して園長に報告しています。同時に最終的な責任は園長がとる体制となっています。</li> <li>・園長と職員との面談を2か月に1回行い、現状の問題や意見・提案を聞いて業務改善につなげています。また、毎月の職員会議でも話し合いを行っています。</li> <li>・園長と職員の面談時には、職員の満足度や要望などを確認しています。</li> </ul>

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業規則、業務マニュアルに法規、倫理などの遵守すべきことを明文化し、入社時の研修で周知するとともに、職員会議等でも園長が折に触れ確認しています。また、職員は入社時に守秘義務等の誓約書を提出しています。</li> <li>・園長は、隔週、設置法人で行われる園長会に出席し、他園での不適切な事例などの報告を受け、職員会議の議題として話し合い、それらの行為を行わないように指導しています。</li> <li>・環境への考え方、取り組みについては年間指導計画の中で環境目標として明文化し、牛乳パック等の廃材で遊具や装飾物を作ったり、個人情報に注意しコピー用紙の裏紙の利用や、ゴミの分別、ペットボトルの蓋の回収などを行い、ごみの減量化に努めています。</li> <li>・電気のスイッチをこまめに消したり、コンセントチェック表を活用しコンセントを抜くなど電力の消費削減に取り組んでいます。プランターでのピーマン、枝豆の栽培、玄関前の花壇の整備など緑化に努めています。</li> </ul>
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針、園目標を玄関ホール目の目に付きやすい位置に掲示しています。また、職員には運営方針、基本方針（保育理念）、園目標などが記載されている保育課程を全職員に配布しています。</li> <li>・園長は重要な意思決定にあたり、運営委員会、保護者会での意見交換、行事後のアンケートなどでその意見を反映させるようにしています。また、重要な意思決定について、職員会議の議題にあげて検討し、保護者会で十分に説明しています。</li> <li>・小規模園なので主任は置かず、園長が主任を兼務し、職員のシフトを作成し、職員が精神的・肉体的に良好な状態を保てるように配慮しています。また、園長が保育に入り職員やクラスの状況を直接確認するようにしています。</li> </ul>
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年5月に3年間の長期計画・中期計画を策定しています。3年中期計画目標として「地域に密着した保育室を目指す」を掲げています。</li> <li>・設置法人においては次代の保育園運営に関し、外部の専門家の意見などを取り入れながら、新しいプロセス、仕組みを検討しています。設置法人の担当部署で収集・分析された情報は、設置法人の園長会で伝達しています。また、園長会での内容は職員会議で職員に報告しています。</li> <li>・運営に関しては設置法人代表が行政、学界など外部の各方面、分野の専門家からの意見聴取を行い、時代にマッチした施設運営に反映するよう努めています。</li> </ul>

# 利用者家族アンケート

施設名:アスク山手保育室

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

## 結果の特徴

### ◇ 調査対象

調査時点での在園児数22名、全保護者22家族を対象とし、回答は13家族からあり、回収率は59%でした。

### ◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態で評価機関が回収しました。

### ◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、肯定的な回答が100%(満足77%、どちらかといえば満足23%)と高い評価でした。

### ◇ 比較的満足度の高い項目

1)「施設の基本理念や基本方針の認知」の回答(よく知っている、まあ知っているの合計)は85%で、この全員が内容について賛同できると、回答しています。

2)日常の保育内容 生活についての設問で、「基本的な生活習慣の自立の取り組み」の回答は「満足」が100%、「お子さんが給食を楽しんでいるか」、「昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているか」、「体調への気配り」の回答(「満足、どちらかといえば満足」の合計)はいずれも100%と高い評価でした。

3)日常の保育内容 遊びについての設問で、「戸外遊びを十分しているか」、「園の教材について」は無回答がそれぞれ8%ありましたが、そのほかの4項目すべての回答(「満足、どちらかといえば満足」の合計)は100%で遊びへの評価が高いことがうかがわれます。

4)保育園の快適さや安全対策について、「施設設備」、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」の回答「どちらかといえば不満」がそれぞれ8%ありましたが、「落ち着いて過ごせる雰囲気」、「感染症の発生状況や情報提供」2項目の回答(「満足、どちらかといえば満足」の合計)はいずれも100%で高い評価でした。

5)園と保護者との連携・交流について「園だよりや掲示などによる情報提供」、「送り迎えの際の情報交換」、「重要な情報の連絡体制」、「保護者からの相談ごと」の回答(「満足、どちらかといえば満足」の合計)はいずれも100%で園と保護者の連携が高く評価されていることがうかがわれます。

6)職員の対応についての設問で、「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるか」、「あなたのお子さんが大切にされているか」の回答(「満足、どちらかといえば満足」の合計)はいずれも100%で高い評価でした。

### ◇ 比較的満足度の低い項目

1)入園した時の状況で、「入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明」の設問に対し、「どちらかといえば不満、不満」の回答が16%ありました。

## 調査結果

### ■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	39%	46%	0%	15%	0%	

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

#### 付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	82%	18%	0%	0%	0%	0%

### ■施設のサービス内容について

#### 問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	77%	23%	0%	0%	0%	0%
その他:						
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	54%	38%	0%	8%	0%	0%
その他:						
園の目標や方針についての説明には	54%	38%	8%	0%	0%	0%
その他:						
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	85%	15%	0%	0%	0%	0%
その他:						
保育園での1日の過ごし方についての説明には	62%	31%	0%	0%	0%	7%
その他:						
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	54%	30%	8%	8%	0%	0%
その他:						

#### 問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	46%	46%	8%	0%	0%	0%
その他:						
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	23%	69%	0%	0%	0%	8%
その他:						



#### 問4 日常の保育内容について

##### 遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	69%	31%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	85%	8%	0%	0%	0%	7%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	54%	38%	0%	0%	0%	8%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	77%	23%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	85%	15%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	69%	31%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

##### 生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	92%	0%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	92%	8%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	100%	0%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	85%	15%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	54%	8%	0%	0%	31%	7%
	その他:					
お子さんの体調への気配りについては	69%	31%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	69%	15%	0%	0%	8%	8%
	その他:					

### 問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	31%	61%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	69%	31%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	61%	31%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	38%	62%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

### 問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	69%	15%	0%	0%	16%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	77%	23%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	46%	46%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	85%	15%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	69%	31%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	62%	38%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	62%	23%	0%	0%	15%	0%
	その他:					

### 問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	77%	23%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	92%	8%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	54%	23%	0%	0%	23%	0%
	その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	69%	23%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	38%	46%	8%	0%	0%	8%
	その他:					

### 問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	77%	23%	0%	0%	0%

## 観察方式による利用者本人調査

平成 26 年 7 月 14 日、18 日

施設名：アスク山手保育室

### ◇0 歳児

#### 自由遊び

子どもはマットの上に広げられたおもちゃの中から、それぞれ好きなおもちゃを手にして遊んでいます。子どもが手にしたおもちゃを職員に見せて「うっうっ」と声を発し、職員は「おさかなさんだね」と応えています。お友達が遊んでいるおもちゃを欲しがっている子どもの姿を職員が見て、「〇〇ちゃんがちょうだい、ちょうだいしてるよ。かしてあげる？」と話し、子どもがおもちゃを差し出すと「△△ちゃんが、かしてくれたよ。ありがとうございますね」と伝えました。まだ言葉で意思を十分に伝えることのできない子どもたちは、職員に欲求を受け止めてもらい、代弁してもらって、職員は子ども同士の関わりを援助しています。

#### 給食

職員に手伝ってもらいながら手洗いを済ませた子どもが順にテーブルについて配膳を待っています。子どもが「マンマ」とぐずり始めると、職員はリズムカルな曲を流し、子どもはリズムに合わせて頭や手を動かしました。エプロンをつけてもらい食事の準備が整うと、職員のリードで給食の歌を歌い「用意はいいですか？お手手をパッチン、いただきます」と、みんなで手を合わせて給食が始まりました。向かいあって座った職員から「ごっくんじょうず」「おいしいね」などと声をかけてもらい、子どもは離乳食をスプーンで口に運んでもらっていました。

#### 午睡

順番におむつを替えてもらい、身体を拭いてもらった後で着替えを済ませ、子どもは好きな絵本を見たり、職員に抱かれてウトウト気持ちよさそうにしています。午前寝をした子どもはおもちゃで遊んでいます。全員の着替えが済むとみんなで一緒に「おやすみなさい」とあいさつをしてお布団に向かいました。カーテンを閉じ、灯りを落とし、静かにオルゴールの音の流れる中で、子どもは職員に背中をトントンしてもらいながら眠り始めました。

### ◇1 歳児

#### 水遊び

園庭に敷いたブルーシートの上のビニールプールには、ペットボトルやマヨネーズの空き容器、ジョウロやいろいろな形の水鉄砲などが入っています。大きなビーチパラソルが日陰を作っています。バケツにコップで水を入れたり流したり、ジョウロでプランターの枝豆に

水をあげたり、水鉄砲で「ピューッ」と水をかけたりして遊んでいます。職員は「お水、気持ちいいね」「水鉄砲、順番に使おうね」など声をかけています。つながって飛んできたトンボを見つけた子どもが「とんぼ」と指差すと「とんぼさん、なかよししてるね」と職員が応え、一緒に「バイバーイ」と手を振っています。子どもは職員に見守られながら、それぞれが楽しそうに遊び続けていました。

## 食事

子どもたちはテーブルに向かい合って座り、スプーンを使って食事をしています。スープも上手に口に運んでいます。手を使う子どももいます。職員は「あつまれ、あつまれする？」「おかわり？」「あれ？チーズきらい？いれすぎたかな」などと声をかけ、子どもが自分でやろうとする思いを大切にしながら介助しています。野菜を食べるのが進まない子どもには、職員が壁に貼ってある大きな絵を指して「トマトさんのこっているけどもういい？ミッキーがみているよ。パツクンしようか？」と言いながら口に運び、子どもが飲み込むと「かつこいい」と手を叩いてほめ「〇〇ちゃん、お野菜食べました」と、他の職員にも伝えていきます。子どもは得意そうな表情をしていました。

## 午睡

みんなで「にじぐみさんのおともだち、おやすみなさい」と挨拶をして、午睡スペースに敷いた布団に横になりました。しばらくすると「〇〇ちゃん、おむつがパンパンで～す」と職員の声とともに、子どもが午睡スペースから出てきました。「〇〇ちゃんのおむつ箱はどこかな？ひとつ出してください」と職員にいわれ、子どもは、自分の箱から出したおむつを手にもち自分からトイレに行き行って座りました。しばらく様子を見守っていた職員は「でない？じゃあ、おむつはこうか」と声をかけました。子どもは職員の元に戻り、手伝ってもらいながら片足ずつ足をあげておむつをはき、布団に戻って行きました。

## ◇2歳児

### 絵本の読み聞かせ

子どもたちは職員から「ブルドーザーとなかまたち」、「かおかおどんなかお」の絵本を読んでもらっています。一冊目の「ブルドーザーとなかまたち」はブルドーザーを知っている子どもが少ないせいか、あまり興味を持っていない様子です。2冊目の「かおかおどんなかお」の絵本には興味深そうに見入って喜んでいきます。職員が「泣いた顔」「楽しい顔」「笑った顔」「悲しい顔」などを話すと、真似をする子どももいます。「泣いた顔」では無表情だったのが、「笑った顔」では子ども同士で顔を見つめ合い、楽しそうに笑った表情を真似しています。

## 英語教室

英語教室の講師が英語で挨拶しながら教室に入ってきました。講師はジェスチャーを交えて英語で話し、子どもたちは楽しそう手をつないでいます。一人の子どもがみんなの中に入らず見ていましたが、後半から、絵カードを使った英語の言葉に興味をもち、みんなと一緒に参加しています。子どもたちは講師が英語を話すと、その都度、保育室の3か所に置いた絵カードの所に楽しそうに移動しています。最後に手の甲にスタンプを押してもらい満足そうにしていました。

## 水遊び

園庭に水遊び用のビニールプールが用意されています。職員が水遊びのルール（プールの中に入らないこと、すべるので走り回らないことなど）を説明し、子どもたちはビニールプールで水遊びを始めました。水鉄砲で水のかげ合いや、コップに水を入れたり出したり、魚釣りの真似をしたり、コップにキャラクターの絵がついているボールを入れ「アイスクリーム」などとはしゃぐ子どももいます。コップに水を汲み、側にあるバケツに水を入れる子ども、園庭のプランターで栽培している枝豆やピーマンに水やりをしている子どももいます。最後に、子どもたちは職員と一緒にプールにある遊具を片付けていました。

## 食事

職員がトレイを並べ食事の準備をします。当番の子どもは自分でエプロンを付けていますが、できない子どもには他の子どもが手伝っています。職員の手助けで給食当番の子どもが大きい声で献立の説明をした後、全員で給食の歌を歌い、その後「いただきます」といって食事が始まりました。子どもはフォークを上手に使って食べています。うまく使えない子どもには職員が側に行きフォークの持ち方を教えています。子どもは「じょうず、じょうず」「かっこいい」と職員にほめてもらい、子どもたちはうれしそうです。早く食べ終わった子どもも椅子に座って待っています。食事の終わりには手を合わせて、「ごちそうさまでした」と大きな声を出して挨拶をしています。食事の遅い子どもが数名いましたが、職員は急がせる様子はなく、自分のペースで食べています。食事がすんで、子どもたちはそれぞれ自分で歯を磨き、職員に仕上げ磨きをしてもらっています。

## 午睡の様子

食事の前に職員が保育室の午睡スペースに布団を敷いています。子どもたちは、食事が終わり、排泄をすませてから、防災対策としてパジャマではなく日常の服に着替えています。着ていた服は自分でたたみ、決められた場所においています。それぞれ、自分の布団を見つけて横になり絵本を読む子ども、静かに布団に横になる子どもなど様々です。時間を見計らって職員が「絵本を読むよ」と声をかけ、子どもたちは静かに聞いています。その後、子どもたちは自分の布団に行きました。職員は子どもが寝つきやすいようにオルゴ

ールの曲をかけ、子どもの様子をみながら扇風機をかけたりしています。みんな、気持ちよさそうに眠りにつきました。

## 平成 26 年度 第三者評価事業者コメント

(アスク山手保育室)

### 【受審の動機】

昨年第三者評価を受審したことで、これまでの園運営を振り返る良い機会となり、また、今後の課題点を確認することができたことから、今年も引き続き受審させていただきました。また、評価機関の選定については、昨年と同じ機関に評価を依頼することによって、昨年度と比較がしやすいと考えました。

運営理念として、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を掲げており、利用者調査を元に保護者のニーズを把握しながら、日々の運営に反映させるべく受審に臨みました。皆様にご理解ご協力いただきましたおかげで、保護者の方々から感謝の言葉をいただくことができました。今後も常に利用者のニーズに耳を傾け、子どもたちや保護者の皆さまに親しまれる園でありたいと考えております。

### 【受審した結果】

自己評価における自園の見直しは、今後の課題を明確にすることができ、新たな気づきが得られる良い機会となりました。全職員が同時期に保育を見直すことで、運営方針や理念を再確認することができました。それにより、職員の意識が高まり、保育の質の向上につながっていくと感じています。

今後の課題として、地域への子育て支援については、絵本の貸出や見学者への積極的な声掛け、育児相談時間の設定等を行い、より地域に開けた保育園を目指して行きたいと思っています。高く評価していただいた点や、前年度より達成度が上がった点に関しては、更なる向上を目指してまいります。

今後も利用者のニーズに沿った保育サービスを提供していけるよう、評価結果を真摯に受け止め、職員の意識向上を保育の質向上へと繋げていきたいと考えております。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙にもかかわらず利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。